

地域の資源を活かし、育み、「水」「土」「里」の未来を拓く

秋田の山

あきたのとちかいりょう

土地改良



VOL. 522
2022
11.25 [Fri]

イメージキャラクター
みどりちゃん



「霧の中のほによ」 撮影者/太田 弓子

表紙の写真は、第22回「あきたの美しく豊かな農村づくり」写真コンクールにおいて秋田県湯上市飯田川で撮影された優秀賞受賞作品です。

水土里ネット秋田では、今年度も**12月23日まで**作品を募集しております。表紙写真の他にも県内には魅力溢れる撮影スポットが沢山ありますので皆さまからの沢山のご応募お待ちしております。

【お問合せ先】

水土里ネット秋田 総務企画部 政策・広報班
TEL.018-888-2742

目次

CONTENTS

- | | | | |
|------------------------------|---|-----------------------------------------|----|
| 令和4年度秋田県土地改良事業推進大会 | 2 | 女性事務局長に聞く！土地改良区リレーインタビュー | 9 |
| 第145回秋田県種苗交換会協賛事業「農業農村整備フェア」 | 4 | (男鹿市土地改良区 事務局長 和田 弘子) | |
| 農業農村整備の集い | 5 | 令和4年秋の叙勲 | 10 |
| 全国水土里ネット女性の会研修会 | 5 | 「会計指導員が行う土地改良区の指導監査」について | 10 |
| 進藤金日子参議院議員が豪雨災害被災現場を調査 | 6 | 「随想」(秋田県雄物川筋土地改良区 小田嶋 弥生) | 11 |
| 8月豪雨災害への本会の取り組み | 7 | 連合会日誌 | 11 |
| 本会佐藤専務理事が令和4年度農村振興技術連盟大賞を受賞 | 7 | 水土里レポーターによる写真投稿(秋田市旭川筋土地改良区 会計主任 齊藤 翔平) | 12 |
| 「土地改良団体における男女共同参画推進研修会」を開催 | 8 | リレー感想文、編集後記 | 12 |

令和4年度

秋田県土地改良事業推進大会

各種事業の支援充実を国に要請（大会決議を採択）



▲挨拶をする高貝会長

11月2日(水)、大仙市「大曲市民会館・大ホール」において第145回秋田県種苗交換会の協賛行事として、本会主催による「令和4年度秋田県土地改良事業推進大会」が会員及び関係者など約900名のご出席を頂き開催された。また、スマート農業に対応できる基盤整備や防災・減災対策の強化に向けた支援の充実を国に求める決議を採択した。

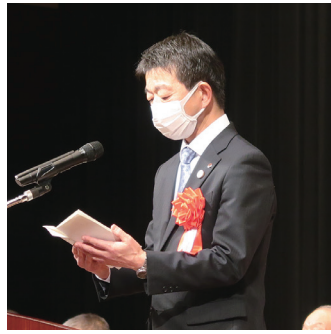
大会では、高貝会長が「**連合会は、土地改良事業の技術的支援団体として常に技術力向上に努め、調査・設計、換地業務等において、それぞれの地域の要望にきめ細かに対応していく。基盤整備を通じて本県農業・農村の持続的発展を実現するため、皆さまには特段のご尽力をお願いしたい**」と挨拶した。

次に、土地改良功労表彰、土地改良事業功績者表彰と21世紀土地改良区創造運動表彰が行われ、3団体10個人が表彰された。続いて大仙市協賛会会長の老松博行大仙市長から歓迎のことばをいただいたあと、ご来賓の皆様を代表して秋田県知事(代読：舛谷雅広農林水産部次長)、坂本修東北農政局長(代読：清野哲生農政局次長)、宮崎雅夫参議院議員、斉藤一志秋田県種苗交換会会頭からご祝辞を頂戴した。

議事に入ると、大仙市大曲土地改良区判田勝補理事長が議長として進行を務め、秋田県農林水産部の大山泰農地整備課長による「秋田県農業農村整備事業の現状報告」に続いて、秋田県西仙北土地改良区佐藤靖彦事務局長が大会決議を読み上げ、満場一致で採択し、大会は閉会した。



▲老松大仙市長



▲舩谷農林水産部次長



▲清野農政局次長



▲宮崎参議院議員



▲斉藤秋田県種苗交換会会頭



▲判田議長



▲大山農地整備課長



▲佐藤事務局長

表彰された団体・個人は次のとおり。

》 秋田県土地改良功労表彰

【知事表彰】

- < 団体 > かつの土地改良区(理事長 田口 信一)
大潟土地改良区 (理事長 今野 諭)
- < 個人 > 後藤 健敏(秋田県西仙北土地改良区理事長)
成田 敏之(北秋田市土地改良区事務局長)
三浦 英樹(三種町浜口土地改良区事業係長)
三浦 完(仙北市黒倉堰土地改良区事務局長(兼)会計主任)

》 秋田県土地改良事業功績者表彰

【会長表彰】

- 佐藤 三七(北秋田市土地改良区監事)
- 須田 誠(戸村土地改良区理事長)
- 高橋 豊昭(鳥海町笹子土地改良区理事長)
- 佐藤 京子(由利本荘市矢島町土地改良区職員)
- 清水川 清(秋田県田沢疏水土地改良区理事)
- 和賀 重(秋田県南旭川水系土地改良区理事)

》 秋田県21世紀土地改良区創造運動表彰

【県知事賞】

- 潟上市天王土地改良区(水土里ネット天王)
理事長 鈴木 美喜雄



大会決議

- 一 令和5年度当初予算において、地域の強い要望に十分応えられる規模の農業農村整備予算を確保すること
- 一 高収益作物の営農定着と効率的な生産体制を確立するため、水田の大区画化や畑地化・汎用化及び農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化を一層促進すること
併せて、スマート農業に対応した基盤整備事業への支援を充実すること
- 一 農村地域の防災・減災力の強化を図るため、防災重点農業用ため池等の農業水利施設の適切な保全管理と、豪雨・耐震化対策などの機能強化を計画的に実施するための支援を一層充実すること
併せて、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」については、引き続き十分な予算を確保すること
- 一 土地改良区の適正な運営と円滑な土地改良事業の推進のため、新たな財務会計制度の定着とその活用、統合整備や男女共同参画の促進など、組織運営体制の強化に向けた支援を一層充実するとともに、電気料金や生産資材価格等の高騰に対応するための支援を講ずること

令和4年11月2日

秋田県土地改良事業推進大会

第145回

秋田県種苗交換会

協賛事業「農業農村整備フェア」

期間・場所 ○期間 10月29日(土)～11月4日(金) ○場所/大曲武道館
集 計 ○アンケート協力者…1,791件 ○来場者数…約4,850名(引継日誌より概算)

今年度も種苗交換会メイン会場である大曲武道館への出展となり、県内外から農業関係者の方々にご来場いただき、賑わいをみせた。

今年度の種苗交換会は、万全なコロナ対策を行った上で、3年間休止していた機械化ショーを開催するなどコロナ前を思わせるような活気に満ちた7日間となった。

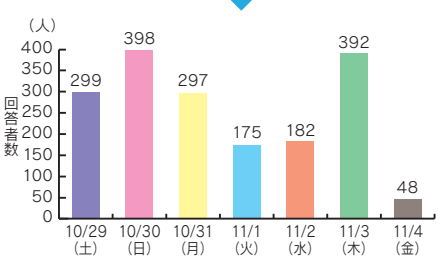
今年度の農業農村整備フェアでは、例年好評をいただいていたポップコーン配布・カレンダー作成を復活させ、感染対策を徹底した上でアンケート調査を行った。多くの方々にアンケートにご協力いただき、回答者への粗品としてポップコーンの他、水土里ネット秋田オリジナルティッシュの配布を行った。また、昨年同様、国・県・水土里ネット秋田のパネル、模型展示、写真コンクール入賞作品の紹介、農業農村整備関係の映像上映も行った。

さらに、今年は秋田県土地改良事業団体職員会仙北支部にもご協力いただき、仙北管内各改良区の施設をカードにした配布物や、古農具を展示したところ「懐かしい」という声が多く上がり、大変好評であった。

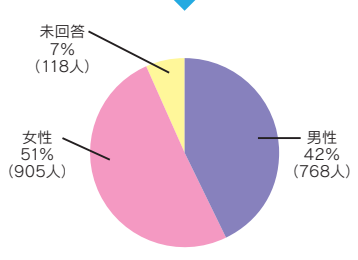
今年度はコロナ前同様、多くの方々に秋田県の農業農村整備事業について理解を深めていただくとともに、今後も関係団体と協力して秋田県の農業農村整備事業を県内外に広くPRしていきたい。

【アンケート調査結果】

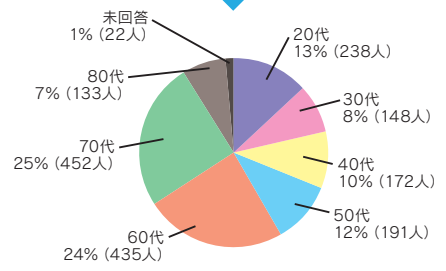
アンケート回答数



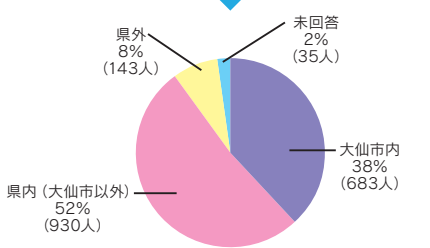
性別



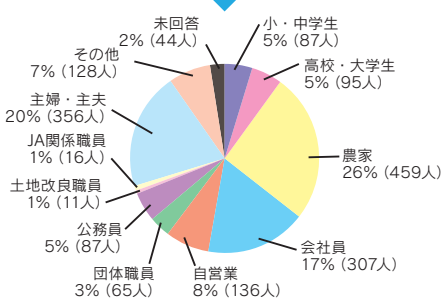
年齢



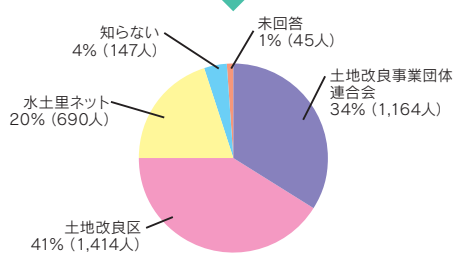
住まい



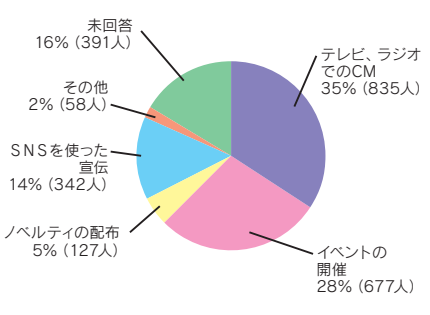
職業



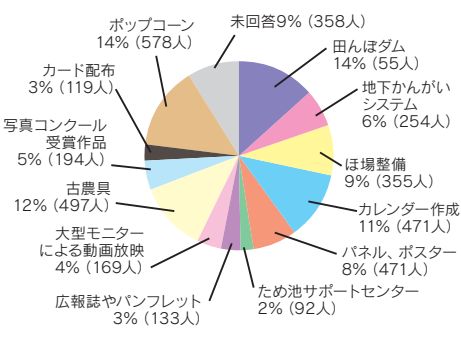
【問1】 次の言葉を聞いたことがありますか？(複数選択可)



【問2】 問1で「水土里ネットを知っている」とお答えの方へお伺いします。水土里ネットの役割をもっと知ってもらうためには、どのような手段が有効だと思いますか。(複数選択可)



【問3】 面白かった展示、ためになった展示は何ですか？(3つまで選択可)



農業農村整備の集い

～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～



二階全土連会長

10月20日(木) 砂防会館別館「シェーンバッハ・サポー」で、令和4年度補正予算及び令和5年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が開催され、全国から土地改良関係者など約1,060名(出席国会議員含む)が参加した。

始めに二階俊博全土連会長が「現在、来年度予算の折衝が続けられているが、農家の皆さんの期待に応えられるよう十分な予算確保に向けて、我々は一致団結して進んでいかなければならない。また、男女共同参画の取組みを本格化させる時期に来ており、土地改良区理事の10%以上を女性にする。土地改良区・土地連の女性登用を推進する。この目標に集中的に取り組むことをお願いしたい。『闘う土地改良』は限りなく続く。男女ともに一致団結して更なる闘いを続けるようお願いしたい」と挨拶を述べた。

ご臨席の藤木眞也農林水産大臣政務官、自民党の遠藤利明総務会長、森山裕TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長、江藤拓党総合農林政策調査会長、武部新党農林部会長、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問からの力強いご祝辞をいただくとともに、多くの国会議員の皆様



ガンバロウ三唱

に駆け付けていただいた。

また、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、荻原丈巳氏(山梨県土地連総務課長、全国水土里ネット女性の会初代会長)に、二階会長から感謝状が授与された。

その後、要請案文の提案・採択、女性理事登用の事例発表(胆沢平野土地改良区・及川正和理事長)が行われ、最後に「ガンバロウ三唱」の力強い発声と盛大な拍手をもって閉会した。



会場の様子

全国水土里ネット女性の会研修会



根本会長

10月21日(金) 砂防会館別館1階会議室で、全国水土里ネット女性の会研修会が開催され、全国から関係者100名が参加した。

始めに、全国水土里ネット女性の会根本会長(あきた水土里ネット女性の会会長)から「21世紀の活力ある社会を造って行くためには、これまで以上に『女性の活躍』が求められている。土地改良においても、女性参画について明確な数値目標が示された。女性が生き生きと活躍できる職場は、全ての職員が生き生きと活躍できる職場だ。『女性活躍』を推進していくためには、その必要性を土地改良関係者それぞれの立場で正しく理解し、一体となって取り組むことが重要だ」と挨拶を述べた。

研修会では、全国水土里ネット室本専務理事より「農業農村整備について」と題して、土地改良区の業務や歴史、土地改良団体における男女共同参画について講演をしていただいた。

次にグループワークとして「男女共同参画推進に向けた、課題の解決」「意識の醸成のための運動論を探る」と題して、参加者をA～Pグループに分け女性参画に向けた現在の課題や課題解決に向けた具体策など活発な意見交換がなされた。



全国水土里ネット会長会議顧問
宮崎参議院議員

最後に情報提供として全国水土里ネット会長会議宮崎顧問より「全国水土里ネット女性の会が設立され約3年経つが、まだマスクが外せない状況の中このように全国からFace to Faceで集まるのは本当に久しぶりだ。是非この機会に皆さんの輪を広げていただきたい」と挨拶があった。

今回の研修では全国から様々な土地改良関係者が集まり、実り多い研修会となった。



室本専務理事



会場の様子

進藤金日子参議院議員が豪雨災害被災現場を調査



令和4年8月2～3日及び9～16日に秋田県北部を中心として発生した豪雨災害の被災現場を、進藤金日子参議院議員が訪れた。8月26日に北秋田市、また、9月25日には鹿角市・大館市を調査し、地元の首長らと意見交換をした。

県内では、鹿角市など県北部を中心に広範囲で大雨の被害が発生し、農林水産関係だけで74億円を超えるなど、大雨被害では過去3番目となる被害額となった。

北秋田市

進藤議員は8月26日、県農林水産部舩谷雅広次長の案内で米代川が氾濫して流木や土砂が流入した北秋田市の水田や、堤体が決壊した綴子の農業用ため池を調査し、その後、北秋田市役所内で津谷永光市長らと、水稻被害への対応、ため池の災害復旧に関する留意事項、揚水機場復旧の方向性などについて意見交換した。



鹿角市

9月25日午前は鹿角市役所内で関厚市長らと意見交換した。その後、関市長の案内で山林の土砂が流入した鹿角市尾去沢の住宅地や、ほ場整備事業実施中の末広地区等を調査した。普通河川が氾濫して農地やJR花輪線が被災した現場では、「抜本的対策の必要性を感じる」とのコメントがあった。



大館市

9月25日午後からは、大館市役所内で名村伸一副市長らと意見交換した。その後、名村副市長の案内で大館市十二所の合津川が氾濫して農機具小屋から押し流された農機具の残骸や、大館市比内町の味噌内川が氾濫して比内地鶏が溺死した鶏舎跡地を調査した。



調査後、進藤議員から「今後の復旧に向けた課題等を確認できたので、秋田県と東北農政局と情報共有するとともに、連携を図りながらしっかりとフォローして参りたい」との力強い言葉を頂戴した。

なお、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、当該災害を激甚災害として指定し、併せて当該災害に対し適用すべき措置の指定に関する政令が9月30日（金）に閣議決定され、10月5日（水）公布・施行された。

8月豪雨災害への本会の取り組み



本会では、県北を中心に発生した8月の豪雨による農地・農業用施設、災害について農村災害支援協議会を通じて、鹿角市、大館市、北秋田市、小坂町から災害査定設計書作成業務を受託し、本会の総力をあげて同業務の遂行に努めているところです。11月上旬からは災害査定が始まり、職員を総動員し業務にあたっております。

※数値は本災害のみの箇所数としています

市町村名	農地災害		施設災害		備考
	全体	土地連受託	全体	土地連受託	
鹿角市	14	13	43	39	
大館市	18	6	39	18	
北秋田市	52	24	79	—	
小坂町	—	—	1	1	



本会佐藤専務理事が 令和4年度農村振興技術連盟大賞を受賞



本会専務理事である佐藤暢芳氏が、令和4年度の農村振興技術連盟大賞を受賞されました。この大賞は、全国の土地改良技術者で構成される全国農村振興技術連盟が、農村振興にかかる技術の啓発・普及や連盟活動に特に顕著な功績があった個人、団体を表彰するものであり、佐藤専務理事は最年少での受賞となりました。



佐藤専務理事は、秋田県職員時代から36年間にわたり農業農村整備事業に携わり、退職後も本会専務理事として、一貫して農業農村整備事業の推進を通じ、秋田県の農業農村の振興・発展に貢献してきました。

特に、秋田県職員時代には「あきた型ほ場整備」の枠組みを構築するにあたり強力なリーダーシップを発揮し、秋田県における農業農村整備事業を先導しました。

これら長年にわたる功績が高く評価され、今回受賞の運びとなりました。

「土地改良団体における男女共同参画推進研修会」を開催 ～誰もが活躍する農業・農村を目指して～

土地改良団体における男女共同参画推進研修会



11月8日（火）秋田市で「土地改良団体における男女共同参画推進研修会」が開催され、県内土地改良区の理事長など関係者88名が参加した。

同研修会は、令和2年の第5次男女共同参画基本計画及び令和3年の土地改良長期計画において、土地改良区（土地改良連合含む）の理事に占める女性の割合を10%以上とする成果目標が設定されたことを踏まえ、目的、方法、定款変更の手続きなどについて情報共有を図り、今後の土地改良団体の男女共同参画を進めるための方策を探ることを目的に、全国水土里ネットと秋田県土地改良区運営基盤強化協議会（委員長：大山泰泉農地整備課長）の主催で開催された。

開会にあたり、同協議会委員長の大山課長が「女性が働きやすく、暮らしやすい農村になることが重要であり、そのため地域をリードする女性農業者を育成し、農村に関する方針策定への女性参画を推進することが求められている。また、土地改良区においても女性参画の数値目標が定められたところである。本研修会は、各関係機関による支援の一環として、土地改良区における男女共同参画の意義等について、役職員の方々に理解を深めてもらうために開催するもので、今後の土地改良区の体制強化に資するものとなり、各関係機関との連携が今まで以上に図られることを期待している」と挨拶した。



研修会は、全国水土里ネット（事業部・システム開発部・技術開発部）の山田部長、東北農政局農村振興部土地改良管理課の村上課長を講師に迎え、「土地改良団体における男女共同参画の意義、基本事項、手引きの使い方、事例紹介」や「土地改良団体における男女共同参画」の講演のほか、県農林水産部農地整備課の足立政策監から、県内土地改良区を対象にしたアンケート結果の報告などが行われた。

質疑応答では、「土地改良区役員の女性登用について、なぜ理事に限定するのか？」の質問に対し、「女性の新たな視点から、土地改良区運営に直結する立場・役割を担ってほしいので理事の登用を進めていただきたい」と回答があった。



国は女性理事登用の目標年度を2025年度としており、参加者は今後の本格的な検討、推進を見据えながら真剣な面持ちで講師の説明に聞き入っていた。

また、研修会終了後には、土地連役員、土地改良区理事長、男女共同参画ワーキングチームによる意見交換が開催され、各理事長から現在の取組状況や検討内容について報告があったほか、今後の女性理事登用の進め方や課題などについて意見交換が行われた。

農業農村整備に関する研修会



10月7日（金）秋田市で「農業農村整備に関する研修会」が開催され、秋田県、県内土地改良区、水土里ネット秋田の職員など62名が参加した。

同研修会は、農業農村整備事業に携わる職員等に、土地改良事業の重要性と土地改良区の地域における役割などの理解を深めてもらうとともに、現在進められている土地改良団体における男女共同参画などについて情報共有を図ることを目的に、秋田県農林水産部の主催で開催された。

始めに県農林水産部舩谷次長の主催者挨拶に続き、研修会が行われた。

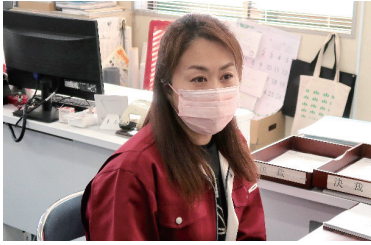
研修では、全国水土里ネット専務理事の室本隆司氏を講師に迎え、「農業農村整備の役割について」と題して、土地改良区の歴史から土地改良区の役割について、土地改良事業の目的と農業振興活動の重要性、令和5年度農業農村整備事業関係予算の概要、土地改良団体における男女共同参画の推進など、非常に広範な内容で講義が行われた。

土地改良法の改正や男女共同参画の推進など、農業・農村を取り巻く情勢が変化する中で、今後の土地改良区運営や農業農村整備事業の推進に役立てようと、参加者は講師の説明に聞き入っていた。



土地改良区リレーインタビューの第3回目として男鹿市土地改良区 事務局長 和田 弘子さんから様々なお話を伺いました！

インタビュー



和田事務局長

Q.1

事務局長に就任された時のお気持ちを教えてください。

最初は、ただただびっくりしました。決して自分になるとは思っていなかったのです。今でこそ女性参画と言われていますが、昔は土地改良区の事務局長といえば、大体男の人の役目だったように思います。しかし、ある組合員から「男性の局長には怖くて言えないが、女性だと言いやすい」と言われたことがあります。また、反対に現場に行くと「男の人はいないのか」と言われたこともありました。様々なことがありますが、全て含めて私には土地改良区の仕事が合っているように思えます。

Q.2

今まで行った業務の中で印象に残っていることはありますか。

最近印象に残っている業務の1つとして国の132条検査があります。国の検査は大きな改良区にしかならないので、初めての経験であり、色々学ぶことができました。元々男鹿市土地改良区は7つの改良区が合併してできた所だったので悪い言い方をすると寄せ集めみたいなのところもありました。私たちの代は違いますが、今の若い子たちは「男鹿市土地改良区」の職員として採用されています。これからは、私たちの代が築いてきたものを引き継ぐだけではなく、新しい「男鹿市土地改良区」を一緒に作ってほしいです。

Q.3

「あきた水土里ネット女性の会」で今後どのようなことをやっていきたいですか。

正直なところコロナの影響もあると思いますが、この「女性の会」の存在を知らない方もいらっしやると思います。まずは、「女性の会」を広めていくことから始めたいです。支部でも「女性セミナー」を開催しているので、例えばそこと上手く連携してPRしていくのも1つの手ではないでしょうか。せっかく根本さんも「全国水土里ネット女性の会」の会長に就任されたわけなので任期中に何かできたらと考えています。



男鹿市土地改良区の皆さん

Q.4

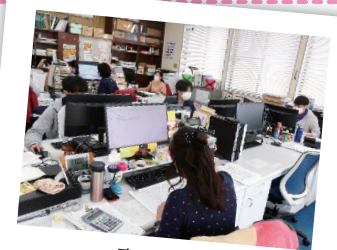
土地改良区における女性理事10%の目標に向けて改良区で何らかの取り組みを始めていますか。

10月、11月に行われた「女性参画推進研修会」に私も理事長も出席させていただきました。うちの改良区はちょうど今年改選したこともあり、研修前は説明されてもどこか聞き流していたところもありました。しかし研修後「本当にやらなければいけないんだ」という思いがあり、確実に意識の変化はあったように思います。理事長もこれからの理事会ではこの話題を取り上げるとしています。決して簡単なことではありませんが、様々な可能性を視野に入れながら取り組まなければならないと考えています。

Q.5

これから農業農村整備関係の仕事を目指している方にひと言をお願いします。

「土地改良」は男の人の仕事というイメージがまだ強いですが、私は楽しく仕事をしています。ただ、それは自分にこの仕事が合っているからであって、日々の業務の中では、怒られることや落ち込むこともあります。改良区にいれば人生の先輩方と接する機会も多くあるので、仕事以外でも様々なアドバイスをもらったり、他愛もない話して盛り上がりたりします。そういったところもこの仕事の魅力だと思うので男社会だからと思わず若い方にはどんどん挑戦して育っていただきたいです。



事務所風景

ひとロメモ

農業農村整備の集い(10/20)



全国土地改良事業団体連合会
二階俊博会長挨拶
いよいよ男女共同参画の取り組みを本格化させる時が来ました。「理事の10%以上を女性にする」今年から集中的に取り組んでいた
だくようお願いします。



男女共同参画功労者へ感謝状贈呈
萩原文巳(水土里ネットやまなし総務課長)は全国水土里ネット女性の会初代会長として各県の女性の会の立ち上げなどに尽力されました。

企業の取組を研修(10/24)



田部井建設株式会社 川島弘美次長
私どもの会社では、男性だから、女性だからという意識が特になくはないと思います。「女性活躍推進法」といいますが、皆さん「女性活躍」という言葉に違和感を感じないですか。
女性はずっと活躍していますよね。私の子供が大人になる頃、昔はこんな言葉があったね、というようになれば良いと思います。(疏水ネットワーク研修会)

令和4年秋の叙勲 受章者発表

この度の栄えある受章、誠におめでとうございます。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

旭日双光章 (地方自治功労)



児玉 裕一

・秋田県仙北平野土地改良区
副理事長

瑞宝単光章 (統計調査功労)



小林 憲二

・北秋田郡上小阿仁村土地改良区
前理事長

「会計指導員が行う土地改良区の指導監査」について

令和5年度から指導監査を希望する土地改良区は、
12月末まで「協議申請書」を提出してください!

- 平成31年4月1日施行の改正土地改良法において、土地改良区は令和5年度の通常総会終了時まで、原則として員外監事を選任することとなりました。
- ただし、選任を行わない例外の一つとして、「農林水産大臣が定める基準」に従って地方連合会から会計に関する指導を受ける場合が該当となります。
- 本会では、同基準に適合する指導監査を行うため、「**会計指導員が行う土地改良区の指導監査に関する実施規程**」(令和元年8月29日理事会承認)を制定しました。
- 同実施規程については、既に各土地改良区に送付し内容をご確認いただいておりますが、詳しくは本会ホームページ (<http://www.akita-midori.net/>)・会員専用サイトをご覧ください。(同サイトから協議申請書のダウンロードが可能です)

【指導監査の契約締結までのスキーム】



- ※ ① 指導監査を希望する土地改良区は協議申請書を連合会に提出(原則、指導監査実施年度の前年度12月末まで申請)
- ② 申請書に記載の指導監査リスク細目、監査実施時期等を土地改良区と連合会で協議し合意形成を図る
- ③ 協議結果を3月開催の管理運営体制強化委員会に報告し承認を得る
- ④ 指導監査に関する契約を土地改良区と連合会で締結

私の癒やし

秋田県雄物川筋土地改良区

小田嶋弥生



新型コロナウイルス流行前は社会人となつた子供達のところへ行くのが私の気分転換でした。しかし、新型コロナウイルスの終息が見えず、思うように外出ができない時期が続いています。そんな中、私の家での癒しはオカメインコのクーちゃんです。

我が家にはオカメインコのノンちゃんがいきましたが、今年の7月に天国へ旅立っていきましました。ノンちゃんがいなくなつてしばらくは家の中の空気が一気に暗くなり、結局家族で相談して新しいオカメインコを迎えること

にしました。その後9月25日に生後2週間のクーちゃんが家にやってきました。両手で包み込むと隠れてしまうほどの大きさの雛鳥で親鳥を呼ぶようにピーピー鳴き、すこし騒がしい気もしましたが、ノンちゃんが亡くなつてから暗くなつた家の空気が一気に明るくなりました。クーちゃんは自分で餌を食べることができないため、家族で協力しながら餌を与えました。今では自分で餌を食べることができたり、おもちゃで遊んだり水浴びをしたり、かなり成長しました。時には頭をグリグリしてほしくて鳥かごにへばりついてアピールしてきます。好奇心旺盛で物怖じしないクーちゃんを見ると癒やされ気分転換になります。毎日とともに過ごすペットは、大事な家族の一員であり、手がかることもありますが、大切に育てていきたいと思ひます。犬や猫がペットの主流ですが、オカメインコもかわいいですよ。

連 合 会 日 誌

10月20日	農業農村整備の集い	東京都
10月21日	全国水土里ネット女性の会研修会	東京都
11月17日	仙北支部役員講習会（～18日）	仙北市
11月17日	鹿角、大館・北秋田支部役員講習会（～18日）	鹿角市
11月18日	令和4年度農業農村整備優良コンクール選定審査	Web会議
11月21日	全国土地改良大会沖縄大会（～24日）	沖縄県

今後の行事予定

11月28日	仙北支部職員講習会	大仙市
11月29日	山本支部役員講習会	大瀧村
11月30日	由利支部役員講習会	由利本荘市
12月2日	鹿角、大館・北秋田土地改良区職員会事務研修会	大館市
12月2日	秋田支部職員講習会	秋田市
12月5日	平鹿支部役員講習会	横手市
12月7日	秋田支部役員講習会	秋田市
12月8日	第3回正副会長会議	本会役員室
12月9日	雄勝支部役員講習会	湯沢市
12月15日	第5回監事会	本会第2会議室
12月15日	第3回理事会	本会第1会議室



仏蘭西菓子 La France

水土里レポーター：秋田市旭川筋土地改良区
会計主任 齊藤 翔平

私が紹介するお店は、秋田市広面郵便局の近くにある“仏蘭西菓子 La France(ラ・フランス)”で、ケーキと焼菓子を豊富に揃えたお店です。

季節に応じて旬のフルーツをまるごと使ったケーキは見た目のインパクトと甘過ぎる事のないクリームで食べ応えがあります。お近くにお寄りの際はぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



リレー vol.31 感想文



TVから「ここに来れば肉声が聞ける」とのつぶやきが聞こえた。IT業界の人らしい。

気になって調べると、かつては「機械を通さない生の声」の意味が、「人工的ではない人が出す声」に変化してきているらしい。僕は夢を食べて生きる空想の動物だが、人は言葉を食べる動物なのかもしれない。誌面を紹介、会話が聞こえるようで楽しかった。

秋田県多面的機能支援協議会

齋藤 透

編集

1年とはあっという間で、気が付けば2022年も残り1ヶ月となりました。

後記

今年は「種苗交換会」もコロナ前を思い出させるような人の

多さで活気に満ちあふれており、私自身、とても懐かしい気持ちになりました。県内外、沢山の方がブースに足を運んでいただきましたが、中でも若い学生の方々が「土地改良」という分野に興味を持って質問などしていただけたのはとても嬉しい出来事でした。

さて、これから冬本番を迎え、ますます寒くなります。関係者の皆さま、会員の皆さまにおかれましては体調を崩されないよう気をつけ、これから来る年末年始が楽しいものになることを願っております。

来年も水土里ネット秋田をどうぞよろしく願いいたします。

(政策・広報班 寺澤)

